

# CLAIR REPORT

## 大韓民国の1995年統一地方選挙

(財) 自治体国際化協会 CLAIR REPORT NUMBER 111 (December 8, 1995)

Council of Local Authorities  
for International Relations



財団  
法人  
**自治体国際化協会**

〒102 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビルディング19階  
TEL 03-3591-5483 FAX 03-3591-5346

## 目 次

はじめに.....	1
I 投票日までの動き.....	2
1 今回の選挙の持つ意味.....	2
2 選挙の焦点.....	3
3 選挙をめぐる政治動向.....	4
4 新しい選挙文化.....	7
II 選挙結果.....	9
1 総括.....	9
2 広域自治団体長（特別市・広域市・道知事）選挙結果.....	11
3 基礎自治団体長（市長・郡守・区長）選挙結果.....	12
4 広域自治団体（特別市・広域市・道）議会議員選挙結果.....	18
5 基礎自治団体（市・郡・区）議会議員選挙結果.....	20
III 広域自治団体長（特別市・広域市・道知事）選挙.....	21
1 概要.....	21
2 選挙の過程で現れた特徴.....	21
(1) 政党公認の変遷.....	21
(2) 中央政治権力の選挙介入.....	21
(3) 数多くの浮動層の存在.....	21
3 選挙結果の特徴的な局面.....	22
(1) 都低村高の継続と与村野都の崩壊.....	22
(2) 地域分割構図の固定化.....	23
4 各圏ごとの主な候補者及び選挙結果.....	25
IV 基礎自治団体長（市長・郡守・区長）選挙.....	30
1 概要.....	30
2 基礎団体長候補の公認と競争率.....	30
3 選挙運動.....	31
4 投票率と投票結果.....	32
V 広域自治団体（特別市・広域市・道）議会議員選挙.....	34
1 概要.....	34
2 候補者の競争率.....	34
3 広域議員当選者の政党別比較.....	35
(1) 地域及び政党別現況.....	35
(2) 政党別の当選者数.....	36

(3) 政党の地域別当選者数	37
(4) 広域団体長との関係	38
4 広域議員当選者の職業及び学歴	39
(1) 職業	39
(2) 学歴	39
 VI 基礎自治団体（市・郡・区）議会議員選挙	40
1 概要	40
2 基礎議員の選挙経過	40
3 競争率と投票率	40
(1) 候補者の競争率	41
(2) 投票率	42
4 基礎議員当選者の人口学的背景	42
(1) 年齢	42
(2) 職業別類型	43
(3) 学歴	43
5 同時選挙での有権者の投票状況	43
 VII 資料編	45
1 選挙の仕組み	45
(1) 選挙権と被選挙権	45
(2) 候補者広報物	46
(3) 選挙運動の方法	46
①合同演説会	46
②その他の演説会	46
(4) 不在者投票	47
(5) 3党（民自、民主、自民）への国庫補助金	47
(6) 法定選挙費用	48
(7) 投票の方法	48
2 候補者登録	49
(1) 候補者の登録現況	50
(2) 候補者辞退・死亡・登録無効	51
(3) 無競合選挙区	51
3 選挙よもやま話	51
(1) 選挙の投・開票の管理及び所要人力	51
(2) 候補者番号（記号）	52
(3) 選挙に珍記録続出	53
(4) 選挙後の広報物処理	54
(5) 選挙話題地域「男女対決」	56

## はじめに

1995年6月27日、韓国の4大地方選挙が、16日間の熱戦レースを終えた。

日本の地方選挙では、候補者の登録が完了すると、選挙管理委員会の指定した箇所に設けられた掲示板に候補者のポスターが掲出され、選挙ムードが高まっていくが、韓国では、政党番号と候補者名が書かれた様々な色の大きな横断幕が、道路の上いっぱいに張り巡らされ一気に選挙戦に突入していく。

拡声器を積んだ自動車の配置は認められており、道路端、広場、市場など多数の人が往来する公開された場所での演説はするが、日本のように候補者名を連呼して町中を流すことはなかった。

地下鉄・鉄道などの主要駅、アパート団地などの人通りの多い所では、候補者の写真や略歴などを書いた「名刺型の印刷物」を持った各候補の運動員が終日張り付いており、行き交う人々にそれを配布してそれぞれの候補者への投票を依頼するわけだが、この名刺型の印刷物は、手の中にすっぽりと覆われており、一見したところ普通の人が近づいてきて声を掛けられるわけで、つい立ち止まり、相手の話を聞く羽目になった。

今回の選挙は、日本の都道府県に当たる15の広域自治団体（ソウル特別市など六つの大都市・九つの道）の団体長と議員、市町村に当たる230の基礎自治団体（67市・98郡・65自治区）の団体長と議員の選挙であったが、このうち、基礎自治団体の議員については政党の公認が禁止された。残り三つの選挙については政党の公認が認められ、政党によっては同一選挙区に複数が立候補の意思表示をすることがあり、その様な場合には、党員大会を開き、党内の選挙で候補者を確定しており、これも日本ではみられない風景であった。

ソウル市長など主要都市の選挙では、テレビ局が主要候補者をスタジオに招き、アメリカの大統領選挙並みにテレビ討論を実施したり、開票速報の番組に日本でも馴染みになった出口調査を行って「投票者調査結果」を放映するなどこれまでにない新しい選挙報道の試みもみられた。

この日午後6時に投票は締め切られ、内務部の暫定集計によると全国の平均投票率は、65.3%で、全有権者3104万8566人のうち2027万18032人が投票し、91年の基礎議員選挙（55%）広域議員選挙（58.9%）を上回った。市・道別では、済州道が76.3%と最も高く、仁川市が58.3%と最も低い投票率を記録した。ソウル市は、63.9%で全国平均を下回った。

選挙結果は、与党民自党の敗北と、金詠三大統領率いる民自党は慶尚道、金大中氏が出身の民主党は全羅道、金鐘秘氏の率いる自民連は忠清道圏で圧倒的に優勢であるというこれまでの韓国の選挙の度に取り沙汰されてきた地域主義がより鮮明に復活することになった。本稿は、ソウル事務所嚴泰浩調査員と朴永蘭調査助手が平井章彦次長の指導のもとにまとめたものである。

韓国の地域住民が、どのような夢を託して35年ぶりに各自治団体の長と議員を選んだのか、また、今後の地域づくりはどのように進められていくのかの一端を知っていただければ幸いである。

## I 投票日までの動き

### 1 今回の選挙の持つ意味

韓国は、1995年6月12日、35年ぶりの統一地方選挙の立候補者登録を締め切り、27日の投票に向けて、激しい選挙戦が初夏の暑さと共に始まった。

今回の選挙はこれまで中央政府が任命してきた道（日本の県に相当）知事、市長の公選制を復活してから初めての選挙。全国9道の知事選挙とソウル特別市（日本の都に相当）、釜山広域市（日本の政令市に相当）など6大都市の市長選は「広域団体長（首長）選挙」、中小都市の市長、大都市の区の区長、郡の郡守の選挙は「基礎団体長（首長）選挙」と呼ばれ、9道と6大都市の議員選挙は「広域議員選挙」、それ以外の地方議員選挙は「基礎議員選挙」とされ、これらの4大選挙が同時に行われた。

今度の選挙は選挙史上最大の規模であり、選挙結果がどういう形になっても政局に少なからぬ変化をもたらすことが予想されたため、他の選挙よりも政治的意味合いが濃いものになっており、政府与党にとっては、選挙に勝てば安定政権を維持することができるが、負けるようなことになれば金泳三政権の弱体化につながりかねないと韓国の各新聞等は報じていた。このようなマスコミの報道に対して政府は、地方選挙はあくまで地方の生活を引き受ける働き手、専門家を選ぶものだし、政治的意味合いを否定した。

マスコミなどの選挙報道はおおむね似ているが、韓国日報がシリーズで連載したものうち、6月12日付けの特集から制度的側面と政治的側面に分けて整理してみると次のとおりであった。

#### （1）制度的側面

まず、今度の選挙は、地方時代の幕開け、地方政治の活性化という観点から「地方行政を地方住民が責任をもって処理することにより、韓国政治は事実上初めて中央集権主義の旧態を脱することになり、中央中心主義の国民意識にも一大転期をもたらすだろうと予想される。一方、地方自治が「明るい未来」をもたらすだけとは限らない。中央政府と地方自治団体間の衝突、地方内の争いにより、行政効率の低下、国力分散現象が引き起こされる可能性も否定できない。さらに、最近世界的傾向は、新中央主義へ回帰している。それぞれの国家が、熾烈な競争で生き残るために力を中央に集中しているのが現状であると言われており、国内的にも、通信の発達により全国が画一化しており、地方行政の固有領域はほとんどなくなっているという見方もある。

#### （2）政治的側面

政府は「地方選挙は地方の生活を引き受ける働き手を選ぶものだ」と政治的意味合いを否定しようとしたが、マスコミは6・27統一地方選挙が、金泳三政府出帆後初めて行われる中間評価的な意味合いを含んでいることと、来年4月の15代総選挙（国会議員選挙）、再来年の大統領選挙の動静を左右する「予備選挙」と位置付け、どの政党が勝ったとしても、現在の政界構造がそのまま存続することは難しいというのが支配的な観測である。

また、民自党が湖南（全羅南道、全羅北道）、忠清南道を除いた全地域で圧勝する場合、金大中、金鍾泌氏は、今より政治的地位が低下し、政界の世代交替の流れにつながり、反面、民主党、自民連が優勢な結果を得た場合、金大中、金鍾泌氏の政治的な影響力は一層強化すると見られる。

そうなった場合、内閣制改憲問題が政治的争点として浮上する公算も大きく、野党側では、金大中氏の政界復帰の可否が具体化し、地域基盤を持たない李基澤（現民主党総裁）総裁の立場が現在より不利になると見られる。

また、無所属が躍進すると、政界に小規模会派が生まれて、離合集散の様相が現れ、政局は乱れて、さらには既存政界に対する不信傾向が広がり「政界の無力化」を招くとの見方もある。

## 2 選挙の焦点

選挙の最大の焦点は、ソウル特別市など6大都市の市長選と九つの道知事選の行方であった。

韓国のマスコミは、15の地域のうち過半数を取れなければ「与党（民自党）の敗北」との見方に立っており、事前の予測では与党有利と見られているのが6大都市の中で仁川広域市と大田広域市、道では京畿道、江原道、慶尚南道、忠清北道の六つであった。

また、接戦を演じているところが釜山広域市、大邱広域市、慶尚北道、済州道の四つで、苦戦を伝えられているのがソウル特別市、光州広域市、忠清南道、全羅南道・北道の五つであった。

野党（民主党）の金大中・アジア太平洋平和財團理事長の地盤である光州市と全羅南・北道、それに民自党から脱党し、新党・自由民主連合（自民連）を作った金鍾泌総裁の地元である忠清南道では与党候補にほぼ勝ち目はないと言われていた。

したがって、ソウル、釜山、大邱の三つの市長と慶尚北道及び済州道の二つの道知事選挙が勝敗の鍵を握っていた。

今回の選挙で一番注目を集めたところは、韓国の全人口約4,500百万人の4分の1が集中する都市ソウルの市長選であった。9人が候補者登録をしたが、実質的には、鄭元植・元首相（民自党）、趙淳・元副首相（民主党）の与野党候補と、無所属の朴燦鍾氏の三つどもえの争いになった。

金泳三大統領が自ら鄭元植候補を擁立したものの、世論調査では3位に甘んじて劣勢であった。重鎮記者の集まりである「寛勲クラブ」が民自党の鄭元植、民主党の趙淳、無所属の朴燦鍾の有力3候補を個別に招き、討論会を開いたのに続いて、KBS-TVも5月27日、6月17日、MBCも6月11日に3候補を一同に集め、討論会を開催したが、その後の世論調査でも無所属の朴燦鍾が他の二人を抑えて依然としてトップを走っていた。

鄭元植候補は、各新聞の世論調査で支持率1位の朴候補に15～20ポイントも引き離されており、2位の趙候補にも水を開けられていた。

政府与党が“ウルトラC”の手を打たない限り、当選はおぼつかないという予測であった。

ソウルと並んで注目されたのが第2の都市・釜山。ここは金泳三大統領の地盤でもある。民自党の候補は、金大統領の側近の一人でもある前民自党事務総長の文正秀候補で、当初は楽勝のムードが漂っていたが、野党・民主党が知名度抜群の前国会議員の盧武鉉候補を擁立したため一転して激戦となった。

盧武鉉候補は前回の総選挙では金泳三系に属しながら3党統合に反対し、金泳三大統領と袂を分けたことから落選したが、20代から30代の若い層には圧倒的な人気があり、5月に実施された朝鮮日報の世論調査では支持率で文候補を15.5ポイントも上回った。

民自党は、大統領の膝元で負けるようなことになれば一大事とばかり、懸命な巻き返しに出たが、文候補は依然として劣勢であった。

第3の都市、大邱市長選挙は、民自党の曹海寧と自由民主連合（自民連）の李義翊、それに無所属の文熹甲、李海鳳等の争いになったが、無所属の文熹甲候補の有利が伝えられていた。

慶尚北道は、民自党の李義恨・前大統領首席秘書官（行政担当）に対し、民自党を脱党し無所属から出馬した前知事の李判石候補が世論調査ではわずかながら上に立っていた。

済州道はこれまで総選挙の度に伝統的に無所属候補が当選することで知られている地域だが、今回も無所属の慎久範候補が民自党の禹瑾敏候補を序盤戦からリードしていた。

民自党が過半数を取れるかどうかは、ソウル市、大邱市、慶尚北道、済州道の無所属候補の動向支持率にかかっているが、各種世論調査では「支持政党なし」が40%に達しており、無所属候補には追い風となっていた。

民自党が今回の15の首長選挙で過半数を下回ることになれば、党内最大派閥でありながら反主流派に転じている旧民正系が造反の動きに出ることも予想された。そうなれば、金泳三政権の今後の政局運営に大きな影響を及ぼすことになりかねず、来年の総選挙で過半数割れという最悪の事態を招くかもしれないマスコミでは伝えていた。

一方、野党・民主党は、光州市と全羅道以外で勝てるかどうかがポイントとなっていた。特に、金大中氏にとっては政界復帰への布石となるだけに、ソウル市を含めて最低六つは取りたいところだった。仮に民主党が敗北すれば、責任問題をめぐって李基澤系と金大中系との間で対立が再燃するとの見方が強かった。（6月16日「東亜日報」）

また、金鍾泌総裁が率いる新党・自民連も忠清南・北道と大田市を確保したいと期待していると見られており、どちらにしても選挙後の政界再編は避けられそうにもないというのが一般的な予想であった。

### 3 選挙をめぐる政治動向

選挙の前哨戦は早くからスタートしていた。1995年2月9日、金鍾泌氏が民自党を脱党した後、与党で提案した行政区画の改編と基礎自治体選挙での政党公認（公認）廃止をめぐって、与野の激しい駆け引きが展開された。この問題では野党議員が国会議長の自宅を占拠するなどの事態まで発展、結局、基礎団体長（首長）は政党の公認を認め、基礎議員（地方議員）は政党の公認をなしとする「半々論」で妥結した。

その直後の3月末から与党は政党公認作業に着手した。民自党の公認作業はおおむねス

ムーズに進んだものの、ソウル市長候補選びでは難航した。

民自党は当初、金大統領が推薦した鄭元植・元総理をソウル市長選の候補者にする方針を固めていた。これに対し、李明博議員は党内で選挙により候補者を決めるべきと主張し、自ら党内選挙（競選）に出馬を表明した。党内選挙を行わなければ脱党して無所属で立候補するのではとの憶測もあり、結局、民自党はソウル市長選候補者を党内選挙で選ぶことにした。

鄭元植氏は行政経験や政治力を兼ね備えた中堅政治家であり、しかも金泳三大統領の支持も得ている。一方、李明博議員は経済界で活躍した華麗な経歴を持っており、テレビドラマの題材になったほど若いサラリーマンにとってはあこがれ的存在である。したがって、李議員は有権者の絶対多数を占めている20～30代の支援を得られる可能性に期待をかけていたようだ。

紆余曲折の末、12日オリンピック公園でソウル市長選候補の選出のための党内選挙を行い、鄭元植氏を候補に選んだ。この日の投票で在籍代議員12,436名のうち7,700名（62%）が参加、鄭候補は4,701票を獲得し、2,884票の李候補を抑えて当選した。

民自党に比べ民主党のソウル市長選の「競選」はスムーズに行われた。民自党より先に行われた民主党の競選は、金大中・アジア太平洋財団理事長の支援を得た趙淳前副総理が、在籍代議員859名中832名が参加し実施された1次投票で320票を獲得、共に競合した趙世衡副総裁（204票）、洪思徳議員（172票）、李哲議員（127票）を抑えたが、過半数（417票）を獲得しなかったため、2位の趙世衡議員と共に2次決選投票に入った。決選投票で趙前副総理は807票中495票を得て趙世衡議員（312票）を抑えて候補に選出された。

各党で行われた「競選」は多くの副作用を起こしたが、それなりに成果があったといえるだろう。

一方、民主党では全羅南道知事候補選びの党内選挙で金大中氏が推す候補が敗れ、許京萬・元国会副議長が候補に選ばれるという大方の予想と異なる事態から始まり、京畿道知事候補選びの党内選挙に至るまで、党内不和の問題が取りざたされていた。

6月11日、選挙に出馬する候補者の登録が始まるまで続いたこの党内不和は、京畿道知事選に張慶宇議員を推薦した李基澤総裁と李鍾贊議員を推薦した金大中・アジア太平洋平和財団理事長間に深いシコリを残してしまったと言われている。（6月27日付け朝鮮日報）

民自党でも京畿道知事候補選びの党内選挙で敗れた任仕彬議員の無所属出馬があり、関係者を驚かせた。候補者の登録後、本格的な選挙戦に突入した序盤戦では、金大中氏の地域等権論などが争点となった。

#### <コラム1>「地域等権主義」に対する政界の反応

金大中氏は選挙期間中、地方巡回講演で「4～5の地域分割」を見通しながら、「地域覇権主義」ではない「地域等権主義」を提唱した。金大中氏のこの発言をめぐり、民自党

では金大中批判を行うとともに、民主党でも李基澤総裁がこの動きを牽制する動きが見られた。

#### ◆民自党の反応◆

朴範珍スポーツマンは論評を発表し、金大中氏を「分裂主義者」と言い、また、「光州・全南（K J）覇権主義」という新語も生まれた。

朴スポーツマンは論評の中で「大統領を誕生させたという理由だけで、釜山、慶南地域に敵対感を燃やし、PK（釜山、慶南）地域覇権主義を云々すれば、金大中氏はK J 覇権主義のため3度も大統領選挙に出たというのか」と語り、「等権主義という奇怪な言葉で地域対決の構図を擁護している」と金大中氏の「地域等権主義」に噛み付いた。

民自党が金大中氏を集中的に非難したのは、何よりも非潮南（全羅道）圏の反金大中感情を刺激し、金大中氏と李基澤総裁の不和をあおるという選挙戦略のためだと言われていた。（5月30日付け東亜日報）

#### ◆民主党の反応◆

「これ以上総裁職を続けるべきなのか、疑問を感じてきた」、李基澤総裁は5月25日午前に行われた総裁団会議の途中で、このような衝撃的な言葉を吐き捨てながら出て行った。この日の会議は京畿道知事選の候補者選びで起きた買収事件にケリをつけるために開いたものだった。ところが事態はよくなるどころか、さらに悪化してしまった。李総裁はこの日、党の真相調査委員会が提出した報告書が公正ではないと総裁団会議の進行を拒否し、途中で退場した。この報告書に対する不満は、特に張慶宇議員側が代議員に金品や接待を提供したことだけ認め、東橋洞系（金大中派）側の暴行については簡単に処理していたという点だ。

このように、党内の対立により総裁職の辞任をほのめかしていた李基澤総裁は28日、党務復帰を宣言した。その理由に「地方選挙での圧勝」と「地域分割構図の阻止」を挙げた。このうち後者は金大中氏を狙ったものだと党内では見ていた。

「3年前、地域感情を克服するために金大中先生と統合した精神を実現させ、地域分割を企図する者とその勢力を防ぐべきだと判断、総裁職に復帰した」と李総裁は述べているが、この中の「金大中先生」と「地域分割を企図している者」は、同じ人物の可能性が高い。これは複雑化した民主党の内部事情を如実に物語っていた。

一方、金大中氏側では「地域等権主義」というのは、特定地域がすべての特権と優遇を独占する「地域覇権主義」と対をなす概念であり、地域間の関係を垂直的な支配関係から水平的な協調関係に転換することだと説明した。

ところが李総裁は「地域等権主義」を「地域覇権主義」のような意味ととらえ、内閣制のための前哨段階として見ていた。このようなことから李総裁は金大中氏の構図を牽制すると予告したとも見える。修復したかに見えた李総裁と金大中氏の対立は再びぶり返す可能性もあり、選挙後の分党の可能性もまことしやかに予想されたりもした。（同上）

※李基澤・民主党総裁：大統領中心制を提唱

金大中・アジア太平洋財團理事長：内閣責任制を提唱

特に6月14日、金大中氏が民主党の選挙演説員として登録、本格的な支援遊説に乗り出したことから、選挙戦の様相は完全に違ってきた。金大中氏の政界復帰問題、金大中氏が提唱する内閣制改憲論と金泳三大統領の世代交代論が真っ向からぶつかり合ったことで、選挙の流れが「3金争い」に変わってしまったと言われている。

それと同時にソウル市長選に出馬した朴燦鍾候補が朴正熙（元大統領）の軍事クーデターを支持していた過去の経歴が問題になったのを境に、いわゆる「過去のアラ探し」が急浮上し、民主党の趙淳候補までが朴正熙政権時代、警護室長と並んで国旗下降式に参加していたことなどが問題にされた。

「過去のアラ探し」に関する問題は、各候補者のスポークマン同士が相次いで告発する事態にまで発展し、投票日の前日26日まで続いた。また、外務部が在外公館に対し行った地方自治制調査の電文をめぐって、政府与党と権魯甲・民主党副総裁が真っ向から衝突し、選挙の最終争点となった。

#### <コラム2>地方自治制調査電文

6月中旬、ある月刊誌が権魯甲民主党副総裁が提供した外務部の対外秘電文を基に「在外公館に地自制延期陰謀と関連された対外秘電文を発送した」という内容の報道をしてから始まった。しかし、この雑誌は、権副総裁が入手したという電文は原本とは違う変造文書である可能性があることを提起した。

この報道の後、外務部は『海外公館に送った電文は先進国の地自制事例調査関連の指示であったが、権副総裁が提示した資料はまるで地自制延期陰謀のように変造された内容』とし、変造経緯について検察捜査を依頼した。

検察は外務部の文書変造事件とからみ、「崔秉震・駐ニュージーランド行政官が変造した可能性が高い」と中間捜査の結果を発表した。これに対し、6月27日、民主党がこれを間接的に認めたことから、民自党は「責任を逃れるための策略」と非難した。また朴範珍スポーツマンは「文書変造事件の真相が明らかにされる前に金大中・アジア太平洋平和財團理事長が側近の権魯甲副総裁を全面に立て、選挙を有利に進めるためマスコミを利用した」と金大中氏に対する疑惑を述べた。（7月4日付け朝鮮日報）

## 4 新しい選挙文化

6月の統一地方選挙を迎えて、テレビやパソコン通信を使った新しい「選挙文化」が登場していると5月31日付けの中央日報が報じた。

特に、有権者がわざわざ遊説会場に出掛けなくとも、お茶の間で候補者の経歴や政見を知ることができるなど、各候補者の比較や評価ができる機会が増えるわけで、候補者側でもこのような「選挙文化」に備えた対策に時間を割いた。

しかし、ややもすると、有権者が候補者のイメージ作りや政治的な演出に惑わされるの

では、という懸念も出ていた。

### (1) パソコン通信

ハイテル、千里眼、ナウヌリなど主なパソコン通信サービスには「選挙広場」が続々と開設された。パソコン通信の利用者の80%以上が20、30代の若い層で、また全体有権者の57%をこの層が占めているという点を考えれば、パソコン通信は「黄金の票田」であることに間違いない。

千里眼ではKBSによるソウル市長3候補の討論内容をそのまま生中継した。この時、利用者からこれら3候補に送るメッセージが殺到、パソコン通信の威力を見せつけた。

しかし、パソコン通信が選挙運動や相手候補者に対する誹謗などに悪用される危険性も孕んんでおり、検察側でもこのような新手の選挙運動違反に対する調査に入った。

### (2) テレビ討論の時代

5月27日の夜のKBS-1TVでのソウル市長選に出馬する民自党の鄭元植候補、民主党の趙淳候補、無所属の朴燦鍾候補の討論会は、有権者に3候補を限なく観察できる機会を与えた。

テレビ画面は、候補者の表情、声、性格、危機管理能力、教養まですべて映し出し、有権者に具体的な判断材料を提供した。

韓国選挙史上初めて、テレビによる候補者の討論会を成功させた国営放送局のKBSはその後、6地域の候補者会見を実施し、民間のMBCも6月11日と23日にソウル市長選候補の討論会を2時間にわたって放送した。

また5月29日、仁川市長選候補の合同会見を放送した新鋭SBS(ソウル放送)も6月13日ソウル市長選候補の討論会を放送した。

このため各候補者は発言方式や時間、席順まで放送局と話し合い、衣装やメイクなどのイメージ作りに神経を使っていると伝えられた。

たとえば、民主党の趙淳候補は麻浦ケーブルチャンネルのスタジオを借り、画面テストと模擬会見を行ったり、衣装にあまり気を使わなかった民自党の鄭元植候補も5月29日、2人の専属コーディネーターを付けたという。

しかし、テレビによる選挙放送は候補者の政見や能力よりも言葉づかいやイメージだけが一人歩きしやすく、政治のショービジネス化を招きやすいという指摘もあった。

## II 選挙結果

### 1 総括

35年ぶりとなった韓国の統一地方選挙は、27日に投票が行われ、即日開票の結果、注目の15市長・道知事選挙で、与党・民自党は5カ所（釜山、仁川広域市と慶尚南・北道、京畿道）しか確保できず、目標の過半数に及ばなかった。

金泳三大統領が率いる民自党は、大統領任期（5年）後半の政局主導権を確保するため、15市長・道知事選挙での過半数の勝利を目標に全力を挙げてきた。

大統領の地盤の釜山市と慶尚南道、慶尚北道、首都圏の京畿道、仁川市の5カ所で勝利を得たものの、激戦となった忠清北道、江原道、大邱市でも競り負け、過半数確保はできなかった。

最大の激戦地ソウル市長選には元首相の鄭元植氏を擁立し必勝を期したが、無党派ブルーに乗った朴餐鍾氏と、民主党公認で自民連の支持を受けた趙淳氏の激戦に苦戦を強いられた。

一方、92年の大統領選挙敗北後に政界引退を表明した金大中氏は、選挙戦前から精力的に全国を遊説、民主党にテコ入れした。「地域等権主義」を提唱し、自らの政界復帰をかけ選挙戦中訴え続けた。

2月に民自党を離れた金鍾泌氏が中心となって結成した自民連（自由民主連合）の知事の候補者は忠清南道、大田市で当選し、民自党との激戦となった忠清北道、江原道でも当選した。江原道では民主党が候補を降ろし、ソウルでは自民連が民主党を支持するなど金大中氏と金鍾泌氏による「金泳三包囲網」が成立した。

15市長・道知事選（民自党5、民主党4、自民連4カ所で当選）に次いで中小都市の市長、郡守、区庁長及び地方議員選挙でも野党である民自党は過半数にも及ばなかった。

230の中小都市の市長、郡守、区庁長選挙で民主党は84カ所（37%）で軍配を上げており、民自党は全体の3分の1にも及ばない71カ所（31%）を占めるにとどまった。一方、自民連は23カ所（10%）で、無所属は52カ所（23%）で善戦した。

また、875名（比例代表97名は除く）を選ぶ地方議員（広域議員）選挙でも民自党は282名（32.2%）の当選にとどまったが、民主党は355名（40.6%）、自民連は85名（9%）、無所属は153名（17.4%）をそれぞれ当選させた。

特に、ソウル市の25区庁長中23区庁長が民主党であり、民自党はやっと2カ所で勝利した。市議員選挙でも民主党が133議席（比例代表除く）のうち122議席を、民自党は11議席を占めるにとどまった。

基礎団体長の場合、民自党は釜山市の16のうち14を、慶尚南道の21のうち11を、済州道の4のうち3と3地域だけで多数を占めており、残り12地域では過半数にも及ばなかった。

民主党は光州市の5の区庁長全部、全羅北道14の中小都市市長・郡守中13、全羅南道24中22を占め、湖南圏で圧勝した。

自民連は、忠清南道の15中小都市市長・郡守全部を、大田市の5区庁長中4を占め、

地域分割の様相を強めた。

広域議員の場合も、民自党は釜山市、慶尚北道、慶尚南道で、民自党は光州市、全羅北道、全羅南道で、自民連は大田市、忠清南道で多数を占めた。

35年ぶりに首長を選挙で選ぶという今回の統一地方選挙だったが、「3金」による地域支配を確認する結果に終わったと言えるだろう。

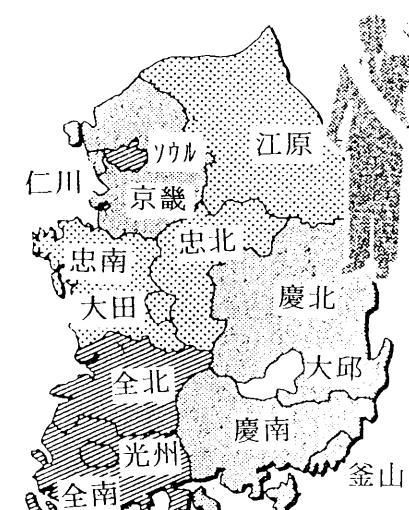
韓国を政党勢力図で色分けして見るとよくわかる。民自党・金泳三（嶺南・慶尚北道、慶尚南道、釜山市）、民主党・金大中（湖南・全羅北道、全羅南道、光州市）、金鍾泌・自民連（忠清圈・忠清北道、忠清南道、大田市）。全国がほぼ均等に3分割された。国民レベルでは、これが地域対立感情に結び付いている。今回の選挙が「3金の代理選挙」と言わされたのは、まさにこの陣取り合戦を指すが、基本的には1989年の大統領選挙の地域対立の構図が復活したと言われている。（6月28日付け朝鮮日報）

6月28日付けの東亜日報は、「韓国の地方自治は、今回の選挙で緒についたばかりだ。今後、各級選挙で候補者や有権者に「脱3金」意識が広がれば、旧態依然の政治勢力地図に変化が生まれるだろう」と論評した。

## 2 広域自治団体長（特別市・広域市・道知事）選挙結果

地域名	立候補者	政党	年齢	得票率(%)	地域名	立候補者	政党	年齢	得票率(%)	
ソウル特別市	趙淳	民主党	67	42.3	大田広域市	洪善基	自民聯	59	63.7	
	朴燦鍾	無所属	56	33.6		廉弘喆	民自党	51	20.9	
	鄭元植	民自党	67	20.7		邊平燮	民主党	58	10.9	
	黃山城	無所属	51	2.0		李大衡	無所属	53	4.5	
	朴弘來	親民党	46	0.5		京畿道	李仁濟	民自党	47	40.4
	金玉仙	無所属	61	0.4		張慶宇	民主党	53	29.6	
	金明豪	無所属	40	0.2		任仕彬	無所属	59	19.8	
	高順福	韓国党	55	0.2		金文元	自民聯	55	10.2	
	鄭基明	無所属	54	0.1	江原道	崔珏圭	自民聯	62	65.8	
	文正秀	民自党	56	51.4	李相龍	民自党	61	34.2		
釜山広域市	盧武鉉	民主党	50	37.6	忠清北道	朱炳德	自民聯	59	36.4	
	金玄玉	無所属	69	9.8		李龍熙	民主党	64	24.5	
	裴相漢	無所属	67	1.2		金德永	民自党	53	23.3	
	文熹甲	無所属	58	36.8		趙南星	無所属	51	8.0	
	李義翔	自民聯	55	22.1		尹錫示	無所属	54	4.1	
大邱広域市	李海鳳	無所属	53	21.4		梁成淵	無所属	61	3.7	
	曹海寧	民自党	52	16.9	忠清南道	沈大平	自民聯	54	67.9	
	安有鎬	無所属	55	2.8		朴重培	民自党	56	19.2	
	崔箕善	民自党	50	40.8		趙重衍	民主党	59	12.9	
	慎金鏞	民主党	54	31.7	全羅北道	柳鍾根	民主党	51	67.1	
仁川広域市	康祐赫	自民聯	57	27.4		姜賢旭	民自党	57	32.9	
	宋彦鍾	民主党	60	89.7	全羅南道	許京萬	民主党	57	73.5	
	金東桓	民自党	63	10.3		全錫洪	民自党	61	26.5	
光州広域市	江原				慶尚北道	李義根	民自党	57	37.9	
	仁川					李判石	無所属	61	34.4	
	京畿					朴弘	自民聯	48	27.7	
	忠北				慶尚南道	金煥雄	民自党	56	64.0	
	大田					金容鈞	自民聯	53	36.0	
	全北					濟州道	慎久範	無所属	53	40.6
	慶北					禹瑾敏	民自党	53	32.5	
	大邱					姜普性	民主党	65	24.3	
	慶南					申斗完	無所属	65	2.6	
	釜山									

※（民自党：民主自由党 自民聯：自由民主聯合）



民自党	[White Box]
民主党	[Diagonal Lines Box]
自民連	[Cross-Hatch Box]
無所属	[Black Box]

### 3 基礎自治団体長（市長・郡守・区庁長）選挙結果

	定 員	民自党	民主党	自民連	無所属
ソウル特別市 （区庁長）	2 5	2	2 3	0	0
釜山広域市 （区庁長）	1 6	1 4	0	0	2
大邱広域市 （区庁長）	8	2	0	1	5
仁川広域市 （区庁長）	1 0	5	5	0	0
光州広域市 （区庁長）	5	0	5	0	0
大田広域市 （区庁長）	5	0	1	4	0
京畿道	3 1	1 3	1 1	0	7
（市長）	1 8	4	1 0	0	4
（郡守）	1 3	9	1	0	3
江原道	1 8	9	1	1	7
（市長）	7	4	1	1	1
（郡守）	1 1	5	0	0	6
忠清北道	1 1	4	2	2	3
（市長）	3	2	0	1	0
（郡守）	8	2	2	1	3
忠清南道	1 5	0	0	1 5	0
（市長）	5	0	0	5	0
（郡守）	1 0	0	0	1 0	0
全羅北道	1 4	0	1 3	0	1
（市長）	6	0	6	0	0
（郡守）	8	0	7	0	1
全羅南道	2 4	0	2 2	0	2
（市長）	6	0	5	0	1
（郡守）	1 8	0	1 7	0	1
慶尚北道	2 3	8	1	0	1 4
（市長）	1 0	3	1	0	6
（郡守）	1 3	5	0	0	8
慶尚南道	2 1	1 0	0	0	1 1
（市長）	1 0	7	0	0	3
（郡守）	1 1	3	0	0	8
済州道	4	3	0	0	1
（市長）	2	1	0	0	1
（郡守）	2	2	0	0	0
総 計	2 3 0	7 0	8 4	2 3	5 3

◎広域・基礎自治団体長名簿

<b>ソウル特別市</b> (25区) (市長：趙淳 67歳 民主党) (区長：民自党2 民主23) (ソウル議会133(14)：民自党11(6) 民主党121(8))				<b>釜山広域市</b> (16区) (市長：文正秀 67歳 民自党) (区長：民自党14 無所属2) (釜山議会55(6)：民自党50(4) 民主党(2) 無所属5)			
基礎自治団体名	氏名	年齢	党名	基礎自治団体名	氏名	年齢	党名
鍾路区	鄭興鎮	51	民主党	中区	卞鍾吉	54	民自党
中区	金東一	54	民主党	西区	卞益圭	58	民自党
龍山区	偰松雄	53	民主党	東区	郭允燮	62	民自党
城東区	高在得	49	民主党	影島区	朴大錫	56	民自党
廣津区	鄭永燮	63	民主党	釜山鎮区	河桂烈	50	民自党
東大門区	朴勳	54	民主党	東來区	李圭祥	59	民自党
中浪区	李文在	62	民主党	南区	李英根	56	無所属
城北区	陳英浩	51	民主党	北区	權翼	55	民自党
江北区	張正植	56	民主党	海雲台区	徐碩寅	67	民自党
道峰区	柳千秀	57	民主党	沙下区	朴在泳	56	民自党
蘆原区	崔仙吉	56	民主党	金井区	尹錫千	60	民自党
恩平区	李培寧	51	民主党	江西区	裴應基	60	無所属
西大门区	李政奎	59	民主党	蓮堤区	朴大海	52	民自党
麻浦区	盧承煥	67	民主党	沙上区	辛宗官	57	民自党
陽川区	梁在鎬	43	民主党	水營区	徐敬源	43	民自党
江西区	俞熾	47	民主党	機張区	吳奎錫	38	民自党
九老区	朴元喆	62	民主党				
衿川区	潘尚均	58	民主党	<b>大邱広域市</b> (8区) (市長：文熹甲 58歳 無所属) (区長：民自党2 自民聯1 無所属5) (大邱議会37(4)：民自党8(2) 民主党(1) 自民聯7(1) 無所属22)			
基礎自治団体名	氏名	年齢	党名				
江南区	權文勇	52	民自党	中区	姜茲中	61	民自党
松坡区	金聖順	54	民主党	東区	吳基煥	53	自民聯
江東区	金忠環	41	民主党	西区	李義相	56	民自党
				南区	李在庸	41	無所属

基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名	大田広域市(5区)			
北区	李 明奎	39	無所属	(市長 : 洪 善基 59歳 自民聯)			
壽城区	金 圭澤	59	無所属	(区庁長 : 民主党1 自民聯4)			
達西区	黃 大鉉	58	無所属	(太田市議会23(3):民主党(1) 無所属23(2))			
達城区	楊 始榮	51	無所属				
基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名	東区	朴 炳浩	49	自民聯
仁川広域市(10区)				中区	全 聖煥	58	自民聯
(市長 : 崔 箕善 50歳 民自党)				西区	李 憲求	60	自民聯
(区庁長 : 民自党5 民主党5)				儒城区	宋 錫贊	43	民主党
(仁川市議会32(3):民自党13(2) 民主党18(1) 無所属1)				大德区	吳 煦重	53	自民聯
基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名	京畿道(18市、13郡)			
中区	李 世英	50	民自党	(道知事 : 李 仁濟 47歳 民自党)			
東区	金 昌秀	52	民自党	(市長・郡守 : 民自党13 民主党11 無所属7)			
南区	閔 凤基	59	民自党	(京畿道議会 123(13):民自党52(7) 民主党57(6) 無所属14)			
延壽区	申 元哲	54	民自党	基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名
南洞区	金 容模	48	民主党	水原市	沈 載德	56	無所属
富平区	崔 龍圭	46	民主党	城南市	吳 誠洙	60	無所属
桂陽区	李 憲珍	56	民主党	議政府市	洪 南用	55	民主党
西区	權 重光	51	民主党	安陽市	李 美鎬	57	民主党
江華区	金 善興	59	民主党	富川市	李 海宣	52	民主党
龜津区	趙 健鎬	60	民自党	光明市	全 在姬	46	民自党
光州広域市(5区)				平澤市	金 善基	42	民自党
(市長 : 宋 彦鍾 58歳 民主党)				東豆川市	方 濟煥	58	民自党
(区庁長 : 民主党5)				安山市	宋 振燮	46	民主党
(光州市議会23(3): 民自党(1) 民主党23(2))				高陽市	申 東泳	51	民主党
基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名	果川市	李 成煥	57	民自党
東区	朴 鐘哲	60	民主党	九里市	李 茂成	53	無所属
西区	李 廷一	49	民主党	南楊州市	金 榮熙	53	無所属
南区	鄭 斗采	56	民主党	烏山市	俞 泰享	54	民主党
北区	金 泰弘	53	民主党	始興市	鄭 彦陽	56	民主党
光山区	高 在維	57	民主党	軍浦市	趙 源克	63	民主党

基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名	基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名
儀旺市	申 昌賢	4 3	民主党	鉄原郡	金 鎬淵	5 2	民自党
漢南市	孫 永彩	4 1	民主党	華川郡	洪 銀杓	5 7	無所属
楊州郡	尹 明老	6 1	民自党	楊口郡	任 瑞淳	5 6	民自党
驪州郡	朴 容國	5 5	民自党	麟蹄郡	李 升浩	5 5	無所属
華城郡	金 日秀	5 5	民自党	高城郡	李 英九	5 1	民自党
坡州郡	宋 達鏞	6 1	民自党	襄陽郡	吳 仁澤	6 1	無所属
広州郡	朴 鍾振	6 0	民主党	<b>忠清北道 (3市、8郡)</b>			
漣川郡	李 重翼	5 3	民自党	(道知事 : 朱 炳德 59歳 自民聯)			
抱川郡	李 進鎬	7 0	無所属	(市長・郡守 : 民自党4 民主党2 自民聯2 無所属3)			
加平郡	李 賢稙	6 3	無所属	(忠北議会36(4):民自党12(2)民主党10(1)自民聯4無所属10)			
楊平郡	閔 丙采	5 7	民自党				
利川郡	柳 勝優	4 7	民自党	基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名
龍仁郡	尹 秉熙	5 3	民自党	清州市	金 顯秀	5 8	自民聯
安城郡	李 鍾健	5 7	民自党	忠州市	李 始鍾	4 8	民自党
金浦郡	劉 正福	3 8	無所属	提川市	權 熙弼	6 0	民自党
<b>江原道 (7市、11郡)</b>				清原郡	卞 鍾燮	6 2	自民聯
(道知事 : 崔 王玉圭 62歳 自民聯)				報恩郡	金 鍾轍	6 0	民主党
(市長・郡守: 民自党9 民主党1 自民聯1 無所属7)				沃川郡	柳 凤烈	5 6	無所属
(江原道議会52(6):民自党27(4)民主党6(2)自民聯1無所属18)				永同郡	朴 完珍	5 7	民自党
				鎮川郡	金 永完	6 0	無所属
基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名	槐山郡	金 煥默	5 9	民主党
春川市	裴 桂燮	5 8	民自党	陰城郡	鄭 祥憲	6 0	無所属
原州市	金 起烈	5 3	自民聯	丹陽郡	鄭 夏模	5 6	民自党
江原市	沈 起燮	5 1	民自党	<b>忠清南道 (5市、10郡)</b>			
東海市	金 寅基	5 7	民自党	(道知事 : 沈大平 54歳 自民聯)			
太白市	洪 淳仙	5 8	民自党	(市長・郡守: 自民聯1 5)			
束草市	董 文星	5 8	民主党	(忠南議会55(6): 民自党3(2)民主党2自民聯49(4)無所属1)			
三陟市	金 日東	5 7	無所属	基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名
洪川郡	李 春燮	6 2	民自党	天安市	李 根永	6 2	自民聯
横城郡	趙 泰鎮	5 8	無所属	公州市	全 炳庸	6 1	自民聯
寧越郡	金 泰洙	6 1	無所属	保寧市	金 鶴顯	6 2	自民聯
平昌郡	金 容郁	5 9	無所属	牙山市	李 吉永	5 4	自民聯
旌善郡	金 源昌	5 1	民自党				

基礎自治団体名	氏 名	年齢	党 名	全羅南道 (6市、18郡)			
善山市	金 基興	56	自民聯	(道知事 : 許 京萬 57歳 民主党)			
錦山郡	金 顯根	57	自民聯	(市長・郡守 : 民主党 22 無所属 2)			
燕岐郡	洪 淳珪	59	自民聯	(全議会68(7):民自1(3) 民主62(4) 無所属5)			
論山郡	田 鎭王甸	63	自民聯		基礎自治団体名	氏 名	年齢
扶餘郡	俞 炳敦	55	自民聯	木浦市	權 叻淡	65	民主党
舒川郡	朴 衝淳	56	自民聯	麗水市	金 光顯	55	民主党
青陽郡	鄭 元永	64	自民聯	順天市	方 成龍	48	民主党
洪城郡	李 鍾瑾	59	自民聯	羅州市	羅 仁洙	61	無所属
禮山郡	權 五昌	61	自民聯	麗川市	丁 圜鎬	47	民主党
泰安郡	尹 瑩相	63	自民聯	光陽市	金 沃炫	61	民主党
唐津郡	金 洛聖	53	自民聯	潭陽郡	文 瑩圭	62	民主党
全羅北道 (6市、8郡)				谷城郡	趙 亨來	46	無所属
(道知事 : 柳 鍾根 51歳 民主党)				求禮郡	李 東昇	52	民主党
(市長・郡守 : 民主党 13 無所属 1)				麗川郡	鄭 根秦	62	民主党
(全北議会52(6) : 民自1(2) 民主49(4) 無所属3)				高興郡	柳 相哲	61	民主党
基础自治団体名	氏 名	年齢	党 名	寶城郡	文 光雄	52	民主党
全市	李 彰承	50	民主党	和順郡	林 興洛	59	民主党
郡山市	金 吉俊	61	民主党	長興郡	金 在鍾	60	民主党
益山市	趙 漢龍	65	民主党	康津郡	金 在洪	66	民主党
井邑市	鞠 承叻	66	民主党	海南郡	金 昌一	66	民主党
南原市	李 淀圭	61	民主党	靈岩郡	朴 一在	61	民主党
金堤市	郭 仁熙	44	民主党	務安郡	李 栽賢	58	民主党
完州郡	林 明煥	62	民主党	咸平郡	鄭 元強	66	民主党
鎮安郡	林 守鎮	50	民主党	靈光郡	金 奉烈	60	民主党
茂朱郡	金 世雄	42	民主党	長城郡	金 興植	58	民主党
長水郡	金 祥斗	61	民主党	莞島郡	車 官薰	57	民主党
任實郡	李 瑩魯	59	民主党	珍島郡	朴 承萬	66	民主党
淳昌郡	林 得春	61	民主党	新安郡	孫 長條	65	民主党
高敞郡	李 昊鍾	68	無所属				
扶安郡	姜 守遠	60	民主党				

慶尚北道(10市、13郡)				慶尚南道(10市、11郡)			
(道知事:李 義根 57歳 民自党)				(道知事: 金 烏赫桂 56歳 民自党)			
(市長・郡守:民自党8 民主党1 無所属14)				(市長・郡守: 民自党10 無所属11 )			
(慶北議会84(8):民自党50(6)民主党1(2)自民聯2無所属31)				(慶南議会85(9):民自党52(6) 民主党(3) 無所属33)			
基礎自治団体名	氏名	年齢	党名	基礎自治団体名	氏名	年齢	党名
浦項市	朴 基煥	48	民主党	昌原市	孔 民培	41	無所属
慶州市	李 源植	58	民自党	蔚山市	沈 完求	57	民自党
金泉市	朴 八用	48	無所属	馬山市	金 鱗圭	60	無所属
安東市	鄭 東鎬	54	無所属	晋州市	白 承斗	55	民自党
龜尾市	金 寛容	53	民自党	鎮海市	金 炳魯	52	民自党
榮州市	金 晉榮	56	無所属	統營市	高 銅柱	59	民自党
永川市	鄭 宰均	56	無所属	泗川市	河 一清	61	民自党
尚州市	金 瑾洙	61	無所属	金海市	宋 銀復	52	民自党
聞慶市	金 學文	60	民自党	密陽市	李 相兆	55	無所属
慶山市	崔 喜旭	60	無所属	巨濟市	尹 相道	58	民自党
軍威郡	洪 淳弘	61	無所属	宣寧郡	田 元溶	59	民自党
義城郡	丁 海杰	56	無所属	咸安郡	趙 性暉	59	無所属
青松郡	安 義鍾	54	民自党	昌寧郡	金 鎮伯	59	無所属
英陽郡	權 容漢	59	無所属	梁山郡	孫 柳燮	57	無所属
盈德郡	金 又淵	52	民自党	固城郡	李 申英	49	無所属
清道郡	金 相淳	56	民自党	南海郡	金 斗官	38	無所属
高靈郡	李 震桓	56	無所属	河東郡	鄭 九鎔	52	民自党
星州郡	金 乾永	57	無所属	山清郡	權 淳英	62	無所属
漆谷郡	崔 在永	57	無所属	咸陽郡	鄭 瑞圭	61	無所属
醴泉郡	權 相國	45	無所属	居昌郡	鄭 柱煥	56	無所属
奉化郡	嚴 泰恒	46	無所属	陜川郡	姜 賜廷	54	無所属
蔚珍郡	田 光舜	59	民自党				
鬱陵郡	鄭 宗泰	57	民自党				

民自党:民主自由党  
自民聯:自由民主聯合  
広域自治団体議會議員の( )内は比例代表制

濟州道(2市、2郡)  
(道知事: 憲 久範 53歳 無所属)  
(市長・郡守:民自党3 無所属1)  
(濟州道議会17(3):民自党7(2)民主党2(1)無所属8)

基礎自治団体名	氏名	年齢	党名
濟州市	高 玖洙	62	民自党
西歸浦市	吳 光協	62	無所属
北濟州郡	申 誓宙	57	民自党
南濟州郡	康 太勳	55	民自党

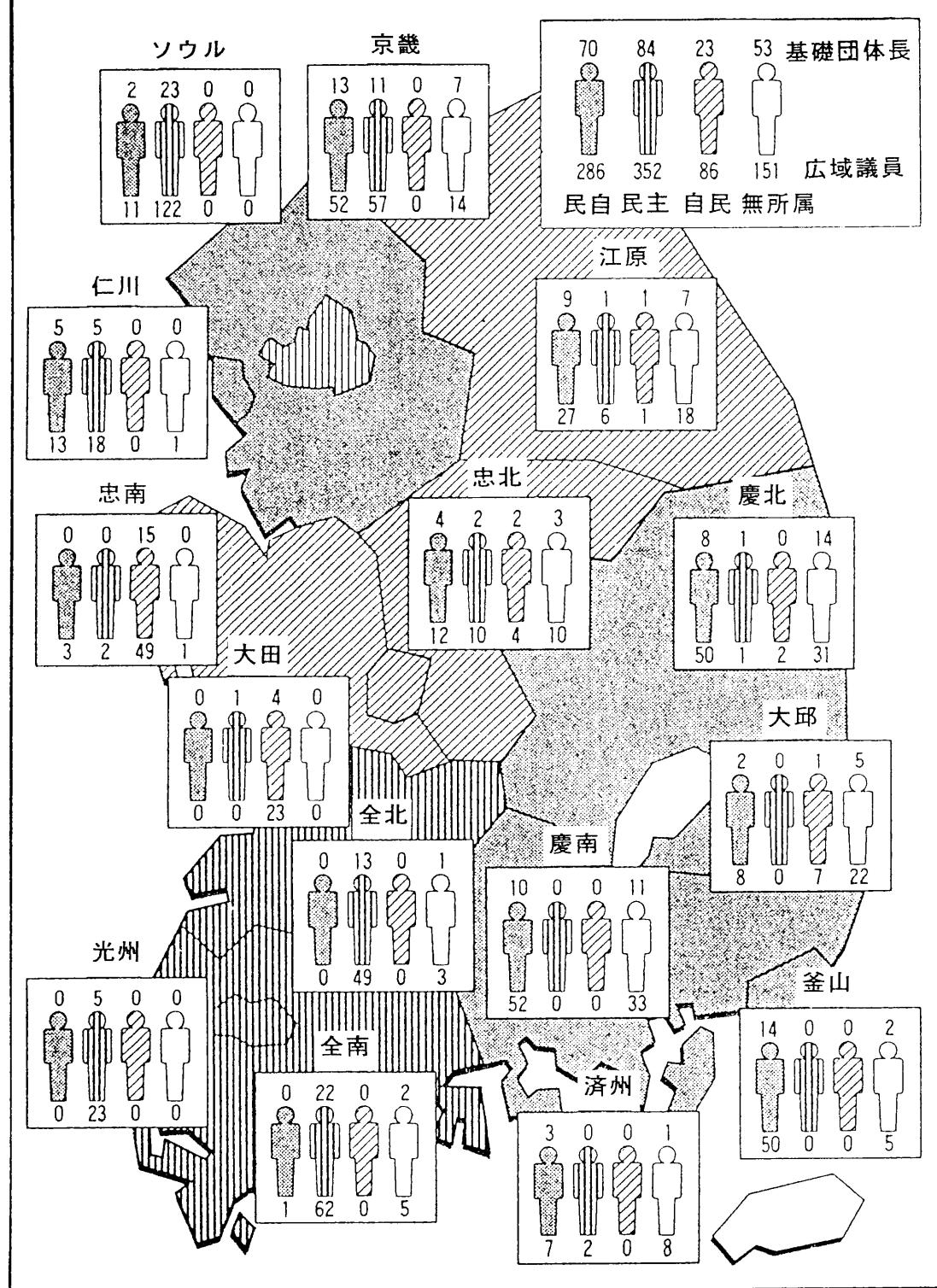
#### 4 広域自治団体（特別市・広域市・道）議会議員選挙結果

	立候補者	定員(比例代表)	民自党	民主党	自民連	無所属
ソウル特別市	402	133(14)	11(6) 36.7%	122(8) 48.6%	0 3.2%	0 11.5%
釜山広域市	127	55(6)	50(4) 55.7%	(2) 13.2%	0 0.2%	5 30.9%
大邱広域市	124	37(4)	8(2) 31.2%	(1) 7.4%	7(1) 11.1%	22 50.3%
仁川広域市	90	32(3)	13(2) 39.0%	18(1) 39.3%	0 10.5%	1 11.2%
光州広域市	58	23(3)	0(1) 9.6%	23(2) 82.3%		0 8.1%
大田広域市	91	23(3)	0 12.8%	(1) 16.2%	23(2) 55.5%	0 15.5%
京畿道	348	123(13)	52(7) 40.5%	57(6) 39.2%	0 3.7%	14 16.6%
江原道	145	52(6)	27(4) 39.4%	6(2) 19.9%	1 4.3%	18 36.4%
忠清北道	102	36(4)	12(2) 35.9%	10(1) 22.6%	4(1) 13.4%	10 28.1%
忠清南道	153	55(6)	3(2) 27.1%	2 8.4%	49(4) 54.5%	1 10.0%
全羅北道	143	52(6)	0(2) 24.4%	49(4) 60.5%		3 15.1%
全羅南道	182	68(7)	1(3) 18.6%	62(4) 55.1%		5 26.3%
慶尚北道	215	84(8)	50(6) 45.2%	1(2) 8.3%	2 2.9%	31 43.6%
慶尚南道	227	85(9)	52(6) 44.5%	0(3) 8.4%	0 0.1%	33 47.0%
済州道	46	17(3)	7(2) 34.2%	2(1) 10.5%		8 55.3%
総 計	2,453	875(95)	286(49)	352(38)	86(8)	151
支持率			36.3%	32.7%	7.2%	23.8%

※下段は党支持率、空欄は党公認候補が立候補しなかった選挙区

## 広域・基礎団体長、広域議員の政党別分布

(単位:名、最終)



5 基礎自治団体（市・郡・区）議会議員選挙結果

	議員定数	立候補者	競争率
ソウル特別市	806	1, 912	2.4
釜山広域市	320	701	2.2
大邱広域市	203	444	2.2
仁川広域市	125	432	3.5
光州広域市	206	297	1.4
大田広域市	107	259	2.4
京畿道	599	1, 631	2.7
江原道	245	747	3.0
忠清北道	180	476	2.6
忠清南道	223	658	3.0
全羅北道	283	880	3.1
全羅南道	343	1, 084	3.2
慶尚北道	374	1, 071	2.9
慶尚南道	451	1, 249	2.8
済州道	51	124	2.4
計	4, 516	11, 965	2.6

### III 広域自治団体長（特別市・広域市・道知事）選挙

#### 1 概要

有力候補3名が数度のテレビ討論会を開催し注目されたソウル特別市長選では、無所属で第14代大統領選挙にも出馬した朴餐鍾候補の優勢が選挙前は伝えられていたが、自民連の支持を受けた民主党の趙淳候補が、42.3%の得票率で当選した。一方、民自党の鄭元植候補の得票率は20.7%にしか達しなかった。

広域自治団体長を政党別に見るならば、民自党は金泳三大統領の地元である釜山広域市、首都圏の京畿道と仁川広域市、慶尚南・北道の5地域で勝利を収め、一方、民主党は金大中・アジア太平洋平和財團理事長の地盤である全羅南・北道、光州広域市とソウルの4地域、自民連は金鍾泌総裁の地盤である忠清南・北道、大田広域市と江原道の4地域で党候補が当選し、大邱広域市と済州道の2地域で無所属候補が当選した。これにより、政党別で見た広域自治団体長数は「民自党5、民主党4、自民連4、無所属2」となり、地域により支持する政党が分離する70～80年代の「3金時代」の様相を再び呈した。韓国の新聞各紙も「民自党は嶺南、民主党は湖南、自民連は忠清」、「3金による“地域分割”再現」等の見出しで大きく報じ、「地方選挙の結果は、与党の敗北と地域分裂主義の再登場に要約され、民主党と自民連の大躍進は3金による地域分割の構図を浮かび上がらせ、地域主義の克服は大きく後退した」（6月28日付け東亜日報）と論評した。

#### 2 選挙の過程で現れた特徴

##### （1）政党公認の変遷

広域団体長候補の政党別公認の過程で少なからず難航し、あつれきも生じた。中央政治をリードする人の指名が無条件で受容された過去とは違って、彼らの推薦が拒否されたり、又は、候補選びの党内選挙（競選）過程でもめる新しい政治慣行が生じた。

例を挙げれば、大統領の意思に従って与党の候補が自動的に選定されるのではなくて、紆余曲折の末、党内選挙を行ったり、党内選挙後にも脱党しながら党内選挙結果を拒否するという異変が発生した。野党の事実上の指導者（金大中）が強く支援した候補が彼の縁故地域で党内選挙を通じ脱落することもあった。

##### （2）中央政治権力の選挙介入

中央政治権力が地方選挙に深く介入し、中央政治指導者らが縁故地域で“地域等権論”、“忠清道役割論”を揚げ、有権者の地域感情と帰属本能をあおる選挙遊説を展開し、有権者は候補者の政見よりは地域の一体感を感じられる政党、心理的連帯感を提供する人物等に頼って支持候補を選択したと言われた。

##### （3）数多くの浮動層の存在

市・道知事の候補選択を最後まで明確にしなかった浮動層の割合が特に高かった選挙で

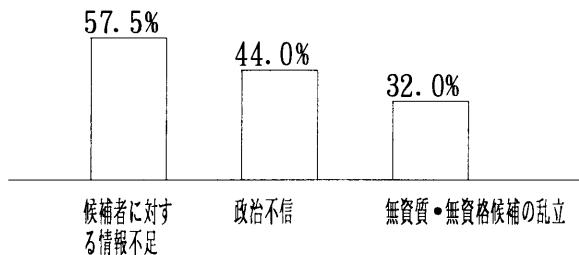
あった。<表1>のように投票当日、候補を決定した有権者が13%、2~3日前に決定した有権者が25.9%に至った。結局、40%の有権者が選挙直前に候補を決定したことになる。

<表1>広域団体長候補決定時期

投票当日	13.8%
2~3日前	25.9%
1ヶ月前	24.0%
1カ月前	34.3%
分からぬ	2.0%

支持候補者を選択できない主な理由は、候補者に対する情報不足（57.5%）、政治不信（44.0%）、無資質・無資格候補の乱立等の順であった。

<表2>浮動層の存在と理由



### 3 選挙結果の特徴的な局面

#### （1）都低村高の継続と与村野都の崩壊

投票参加率（投票率）が都市では低く、農村にいけば高くなるという、いわば「都低村高」現象が今回の広域選挙でも見られた。14代国議員選挙や91年地方議会選挙と同様にソウル、釜山等広域都市圏の投票率が比較的低く、江原道・済州道など、都市化が相対的に遅れた地域の投票率が高い現象が、今回の統一地方選挙でも明らかに反映された。全国平均の68.3%を基準とした場合、広域市は基準を下回る反面、京畿道を除いたすべての道知事選挙の投票率は基準を上回った。

<表3>歴代選挙投票率の変化推移

	全国	ソウル	釜山	大邱	仁川	光州	大田	京畿	江原	忠北
14代国議員選	71.9	69.2	69.1	66.6	68.0	70.1	70.1	69.6	78.0	76.0
91年地方議会選	58.9	52.4	57.6	53.0	53.9	55.6	59.8	55.5	68.5	65.4
95年統一地方選	68.3	65.9	66.3	64.0	62.0	64.9	67.0	63.3	74.8	72.7
								忠南	全北	全南
								76.0	74.3	75.4
								69.1	62.4	65.3
								73.8	73.7	76.1
								78.4	77.3	78.6
								68.7	64.8	74.7
								76.8	73.1	80.5

一方、農村地域は親与党へ、都市地域は親野党への投票傾向を見せた過去の「与村野都」現象は崩れたと思われる。このような変化は、当選した市・道知事の所属政党分布ではもちろん、市・道議会議員の政党分布でも明らかになった。過去の「与村野都」現象が新しく浮かび上がった地域分割構図により代替されたと考えられる。より具体的に、釜山及び慶尚南・北道地域の親与党化に対して、光州及び全羅南・北道地域、大田及び忠清南・北道地域においては市・道知事及び議会の構成において野党独占の現象が明確に現れた（表4参照）。

＜表4＞市・道知事の所属政党と議会の過半数を占める政党

	ソウル	釜山	大邱	仁川	光州	大田	京畿	江原	忠北	忠南
広域団体長	民主	民自	無	民自	民主	自民	民自	自民	自民	自民
広域議会	民主	民自	無	民主	民主	自民		民自		自民
※民自一民主自由党						全北	全南	慶北	慶南	済州
民主一民主党						民主	民主	民自	民自	無
自民一自由民主連合						民主	民主	民自	民自	
無一無所属										

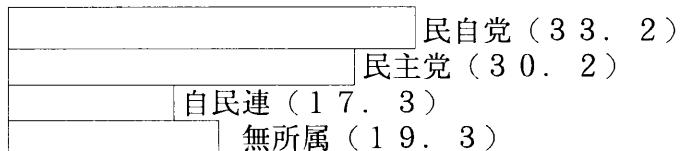
## （2）地域分割構図の固定化

「与村野都」に代わり登場した地域別分割構図は、87年大統領選挙以後その様相が続いている。（コラム3参照）

＜表5＞に整理されたとおり広域団体長の政党別得票率を見ると民自党が33.2%で1位を占めており、民主党が30.2%、自民連が17.3%、それから無所属が19.6%をそれぞれ獲得した。

ところが、有権者の支持率は地域により強勢と弱勢が明確に表れた。民自党の場合、釜山、慶南圏で56.3%の支持率を獲得した反面、光州、全羅南・北圏では25.6%、大田、忠清南・北圏の地域で21.0%の支持を得ることに止まった。特に、忠清圏で民自党は92年国會議員選挙当時、40.1%という高い支持を得たが、急激に支持率が落ちた（その時、自民連の金鍾泌総裁が民自党に属していた。）。民主党の場合、88年と92年の国會議員選挙時を大きく上回る74.3%の得票率を光州、全羅南・北道で獲得した反面、釜山、慶尚南・北道では公認さえできない脆弱性を見せた。一方、自民連の場合、政党別の3元的（民自、民主、自民）分割構図により新しく形成された一つの軸を確保するのに成功した。慶尚南道で36.2%、大邱22.1%、慶尚北道で27.7%を確保するのにとどまったが、大田63.8%、忠清南・北道地域で57.2%、江原圏で65.8%の支持を得た。

＜表5＞広域団体長選挙の政党別得票率（%）



<コラム 3 >

韓国で地域主義が最高潮に達したのは、盧泰愚、金泳三、金大中、金鍾泌が対決した87年12月の13代大統領選挙だった。このような流れは88年4月の13代国会議員総選挙にもそのまま続き、1盧3金の各政党が割拠した地域で圧勝、結果的に少数与党多数野党の状況が生まれ、3党統合につながった。そのような状況に加え、92年3月の14代国会議員総選挙は、全羅北道では民自党候補2名が当選し、若干の変化のきざしを見せた。しかし、その年の12月の14代大統領選挙では再び地域主義が選挙を圧した。

1盧3金及びその政党の基盤（地元）の得票率

投票日	選挙名	盧泰愚 大邱・慶北	金泳三 釜山・慶南	金大中 光州・全南北	金鍾泌 大田・忠南
87. 12. 16	13代 大統領選挙	64.6% (民政党)	52.7% (統一民主党)	86.2% (平和民主党)	43.8% (新民主共和党)
88. 4. 26	13代 国会議員選挙	49.3% (29議席中25議席)	45.3% (37議席中23議席)	68.2% (37議席中36議席)	45.9% (18議席中13議席)
92. 3. 24	14代 国会議員選挙	48.2% (民自党 32議席中22議席)	48.6% (民自党 39議席中37議席)	62.1% (民主党 39議席中37議席)	45.9% (民自党 19議席中8議席)
92. 12. 18	14代 大統領選挙	—	72.1% (民自党)	90.9% (民主党)	—

言い替えれば、民自党は統一民主党の時より釜山、京畿地域で支持率が上昇しており、民主党は平民党の時より湖南圈とソウル圏でより一層強力な有権者の支持を獲得した。一方、自民連は新民主共和党の時に比べ忠清圏と江原圏で刮目すべき成長を成し遂げた。市・道知事（広域団体長）の3党地域分割形態は、このように地域主義が強化された結果として解釈される。<表6>参照。（金インチヨル、地方行政、1995年7月）

<表6>政党別、歴代選挙得票率

	統一民主党－民自党			平民党－民主党			新民主共和党－自民連	
	88総選	92総選	95広域長選	88総選	92総選	95広域長選	88総選	95広域長選
ソウル	23.1	34.7	20.7	26.7	37.2	42.3	15.9	—
釜山－慶南	45.2	48.6	56.3	1.4	13.8	37.5(釜山)	8.4	36.0(慶南)
大邱－慶北	25.7	48.2	29.0	0.8	8.7	—	14.7	25.3
仁川－京畿	23.8	36.4	39.6	15.3	31.5	29.4	17.4	13.6
光州－全南北	0.9	24.4	25.6	68.1	62.0	74.3	1.5	—
大田－忠南北	15.1	40.1	21.0	2.9	22.5	16.3	41.5	57.2
江原	21.3	38.8	34.2	3.9	11.7	—	19.9	65.8

#### 4 各圏ごとの主な候補者及び選挙結果

##### (1) ソウル・京畿圏

###### ○ソウル特別市

市長：趙淳 (Cho Soon)

投票率：65.9%

開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
鄭元植	67	元総理	民自党	997,062	20.7
趙淳	67	元副総理	民主党	2,042,293	42.4
朴餐鍾	56	5選国会議員	無所属	1,618,496	33.5

韓国の首都ソウルの各種全国対比の数値を見ると次のとおりである。

人口1,092万人(24.8%)、国内総生産51兆1千20億ウォン(24.5%)、銀行預金額55兆8千900億ウォン(52.1%)、銀行貸出52兆650億ウォン(50.7%)、内国税徴収11兆9千10億ウォン(39.6%)。。。

この数値を見ると、各分野でのソウルへの一極集中は一目瞭然である。また、ここに政治的意味まで含めると、ソウル市長選は統一地方選挙において相当大きい意義を持つこととなり、地方選挙に臨む与野党の関心は、自然にソウルに集中することとなった。

今回の統一地方選挙で一番注目を集めたソウル市長選には9人が候補者登録をしたが、事実上は、鄭元植、趙淳、朴餐鍾氏の3つどもえの争いになった。4月の日本の地方選挙で無所属候補者が当選したことに刺激され、韓国でも無所属ブームが期待された。しかし、ソウル市長の無所属当選はならなかった。



▲ソウル市長に当選した趙淳氏の選挙用名刺（原本）

###### ○仁川広域市

市長：崔箕善 (Choi Ki-sun)

投票率：62.0%

開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
崔箕善	50	元仁川市長	民自党	383,960	40.8
慎鏞碩	54	仁川郷土史研究会会长	民主党	298,539	31.7
康祐赫	57	2選国会議員	自民連	258,168	27.5

○京畿道

道知事：李仁済 (Lee In-je) 投票率：63.3% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
李仁済	46	2選議員・労働部長官	民自党	1,264,682	40.6
張慶宇	53	3選議員	民主党	922,848	29.6
金文元	55	2選議員	自民連	313,613	10.2

京畿道知事選は全員が国会議員経験者という他の広域団体長選挙には見られない争いとなつた。他の広域体等で出馬を模索していた国会議員が、勝算がないため立候補を断念していく中で、京畿道の各候補が1年近く残っている任期を放棄してまで立候補したということは、かなりの自信の現れであると見られた。

投票率は9道の中で一番低く、全国でも一番低い仁川の次であった（8道の平均投票率は75.1%）。このように投票率が低かった理由として2つの原因が考えられる。民主党が道知事候補選びのための党内選挙で「金封筒」による票の買収事件を起こしたことと、候補選びの党内選挙で敗れた任仕彬氏が民自党を脱党し無所属で出馬したことであり、京畿道は今回の統一地方選挙で一番雑音が多かった地域でもあった。

政治に対する有権者の不信、不満が広がっており、これが投票率にもつながったと考えられる。

(2) 嶺東・嶺西圏

○江原道

道知事：崔玗圭 (Choi Gak-kyu) 投票率：74.8% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
李相龍	61	元江原道知事	民自党	259,669	34.2
崔玗圭	62	議員・商工・農水産長官・副總理	自民連	500,579	65.9

(3) 忠清圏

○忠清北道

道知事：朱炳徳 (Joo Byong-duck) 投票率：72.7% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
金德永	53	元忠清北道知事	民自党	159,896	23.3
李龍熙	64	3選国会議員	民主党	168,202	24.5
朱炳徳	59	元忠清北道知事	自民連	250,091	36.4

○大田広域市

市長：洪善基 (Hong Sun-kee) 投票率：67.0% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
廉弘吉	51	元大田市長	民自党	112,349	20.9
邊平變	55	大田日報編集局長	民主党	58,212	10.8
洪善基	59	大田市長・忠清南道知事	自民連	341,899	63.8

○忠清南道

道知事：沈大平 (Shim Dae-pyong) 投票率：73.8% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
朴重倍	56	元忠清南道知事	民自党	173,653	19.2
沈大平	54	元忠清南道知事	自民連	614,560	67.9

(4) 嶺南圏

○大邱広域市

市長：文熹甲 (Moon Hi-gab) 投票率：64.0% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
曹海寧	52	元大邱市長	民自党	175,624	16.9
李義竜	55	元大邱市長	自民連	230,519	22.1
文熹甲	58	青瓦台経済首席・2議員	無所属	383,130	36.8
李海鳳	53	元大邱市長・青少年部長官	無所属	222,334	21.4

大邱はすべての政党が狙っていた地域であった。従来から強い支持地盤であると言われている民自党、3共和国（朴正熙大統領）時代の郷愁から今度の選挙にも期待をかけた自民連、大邱の自立を訴える無所属候補たち、お互いに入り乱れもつれあい、混戦を繰り広げていた。

朝鮮日報とギャロップ調査研究の共同世論調査の結果、大邱市民の無所属市長候補支持率が28.2%と全国で一番高いことが分かった。2位の済州道（15.6%）より12.6%高く、全国平均（11.5%）よりも実に16.7%も高い数値である。無所属団体長支持率は慶尚北道でも13.7%と高めに出ており、済州道に続き3位である。続いて仁川-京畿（12.2%）、大田-忠清南道（11.4%）、釜山-慶尚南道（10.9%）ソウル（10.5%）江原道（9.3%）、光州-全羅道（5.6%）等の順であった。大邱の無所属候補は年齢が低くなるに従い、また学歴が上がるに従い高くなっていた。20代が35.9%と最も高く、30代28.1%、40代22.2%、50代21.0%ほかとなっており、学歴別では、大学在学以上33.1%で最も高く、高卒27.5%、中卒26.8%、小学校卒4.7%となっていた。無所属広域団体長候補支持率は、また、都市地域に近づくに従い高くなっていた。大邱の無所属市長支持率が、28.2%であるのとは反対に、慶北の無所属知事支持率は、中・小都市16.8%、邑・面12.1%と農村地域にいくに従い低くなっていた。大邱の市長無所属支持率は、無所属候補に次いで、民自党（27.6%）民主党（16.3%）、自民連（4.6%）の順であることが分かった。「関係ない」と「分からない、又は無回答」も14.3%、8.2%に達した。

○慶尚北道

道知事：李義根 (Lee Eui-keun) 投票率：76.8% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
李義根	57	元慶尚北道知事	民自党	541,172	37.9
朴俊弘	48	政務調査室長(次官補級)	自民連	396,042	27.7
李判石	61	元慶尚北道知事	無所属	489,542	34.4

○釜山広域市

市長：文正秀 (Moon Jung-soo) 投票率：66.3% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
文正秀	56	3選議員、民自党事務総長	民自党	885,228	51.4
盧武鉉	49	13代議員、民主党副総裁	民主党	646,511	37.6
金玄玉	69	ソウル市長、内務部長官	無所属	170,304	9.8

金泳三大統領の政治的な故郷の釜山は与圏（与党勢力圏）の中でも無風地帯に分流していた地域であった。民自党国會議員が16地域区を占めており、広域議員も50名の中で一人を除いた49名が民自党所属であった。この点で釜山地域はまた野党側に入り込みにくい状況だった。

しかし、過去において野党の都だった釜山が「金泳三大統領作り」で与党の都に変身したのであったが、目標達成以後の雰囲気は一方的な民自党支持から脱皮しようという方向に流れていたことも事実であった。野党側ではこの点に期待をかけていたが、実際選挙に入ると、野党候補が市長はもちろん区庁長選挙でも勝利を期待するのは無理だというのが現地の雰囲気だった。

このような状況の中で、今度の地方選挙で釜山が注目されたのは、民主党の盧武鉉候補が登場したためであった。レースの開始前10カ所の中央、地方報道関係者が実施した世論調査では、支持率で民主党の盧武鉉候補が民自党の文正秀候補を15ポイント以上も上回った。

選挙の結果、民主党の盧武鉉候補が敗れはしたが善戦したこと、金大統領の「金城湯池」に一石を投じたと報道された。

○慶尚南道

道知事：金燐珪 (Kim Hyuk-kyu) 投票率：73.1% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
金燐珪	56	慶尚南道知事	民自党	1,170,749	63.8
金容鈞	53	憲裁事務処長	自民連	659,531	36.2

(5) 湖南圏

○全羅北道

道知事：柳鍾根 (You Yong-keun) 投票率：73.7% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
姜賢旭	57	農水産部長官	民自党	319,492	32.8
柳鍾根	51	アジア太平財團事務副総長	民主党	652,508	67.2

○光州広域市

市長：宋彦鍾 (Song Eon-jong) 投票率：64.9% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
金東桓	63	光州市長（2回）	民自党	53,817	10.3
宋彦鍾	58	光州市長、全羅南道知事	民主党	469,570	89.7

全羅南道に位置している光州は、全羅南道と同じく金大中氏（アジア太平洋平和財團理事長）の影響下にある。

朝鮮日報とギャラップが5月22日実施した光州地域有権者の世論調査の結果、民主党の宋彦鍾候補への有権者の支持理由としては、「所属政党」（42.5%）が圧倒的に高く、その次は「経験－経歴」（25.7%）であった。

一方、民自党金東桓候補については、「所属政党」（18.8%）より「経験－経歴」（24.7%）を重視しているという支持理由であった。

この世論調査で分かるように、光州で所属政党（民主党）に対する支持率が高く現れた。

#### ○全羅南道

道知事：許京萬（Huh Kyung-man） 投票率：76.1% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
金錫洪	61	光州市長、全羅南道知事	民自党	277,403	26.4
許京萬	57	4選議員、国会副議長	民主党	769,521	73.6

#### （6）済州圈

##### ○済州道

道知事：慎久範（Shin Koo-bum） 投票率：80.5% 開票率：100%

候補者	年齢	略歴	党	得票数	得票率(%)
禹瑾敏	53	済州道知事	民自党	89,000	32.5
姜普性	65	2選議員、農林水産部長官	民主党	66,406	24.3
慎久範	53	済州道知事	無所属	111,205	40.6